

2019年6月25日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 522  
多面的・総合的な評価の実装に向けて —  
**個別大学の入試改革 — 最前線と進化策 3**

～ 共通ルールの策定/主体性評価/調査書・ポートフォリオ活用/個別試験の工夫 ～

**7月16日(火)開催**  
ご参画・ご派遣のお願い

今月18日に、大学教員・研究者が8,000人余の署名リストを添えて、「英語民間試験の利用中止と制度見直し」について、衆・参への国会請願書を提出するとともに、院内集会と記者会見を開きました。「新制度の問題点(6テーマ・16項目)」「賛同研究者(35人)のコメント」等は下記のサイトからご覧いただけます。

「2021年度(2020年度実施)の大学入学共通テストにおける英語民間試験の利用中止を求めます。」  
<https://nominkaninkyotsu.com/>

「今、何故に、国会請願なのか？」はさておき、時局的には、この夏の参議院選挙への立候補予定者及び衆議院議員の各位全員にアンケートを実施し、個別回答をウェブ公表することが肝要かと存じます。

しかしながら、基軸は、当事者・主体である、大学及び高校と関係協会・団体関係各位の見識と自治と決断が鋭く問われております。大学教育と高校教育の危機は社会の危機。“未だ、遅くない、まずストップだ”という一大ムーブメントを希求したいものであります。

一方では、先月29日に開かれた文科省の「『大学入学共通テスト』検討・準備グループ」で「令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施大綱(案)」が示される等、高大接続改革シナリオは着々と進んでおります。

そのような中では、小会として、個別大学のリーダー各位の“ご見識”に俟つほかないのでは、と考えております。そこで、“個別入試の創意工夫”についての情報交換の場として、本セミナーを企画いたしました。

第1講の毎日新聞前論説委員の澤 圭一郎氏からは、この間行われてきた、高大接続・大学入試改革や共通テストの制度設計に関するポイントと論点整理、そして個別入試に求められることについて、ご講義を賜わります。

続けて、高大接続改革を見据えて、いち早く取組みを行なっている3大学からご講義を賜わります。

第2講の東京都市大学の菅沼 直治氏からは、自大学の特長を顕在化させた「原子力人材入試」や、主体性評価を導入し試行実施した「センター利用入試：後期グループディスカッション型」の取組みや今後の対応について、ご報告を賜わります。

第3講の千葉商科大学の出水 淳氏からは、「育てたい学生」を選抜する入試制度として総合評価型入試の制度設計や評価のポイント、そして、2年行ってきた上での検証とポートフォリオとの連携、更なる進化の方向について、ご報告を賜わります。

第4講の佐賀大学の西郡 大氏からは、多面的・総合的な評価のための先進的取組みである、「特色加点制度」、「佐賀大学版CBT」、「継続・育成型高大連

携カリキュラム」について、実践と今後の展望について、ご報告を賜ります。